

進む！農作業の省力・省人化

水田農業における省力・省人化事例の一部について御紹介します。

事例1. ドローンによる農薬散布 ～より幅広い空中散布が可能～



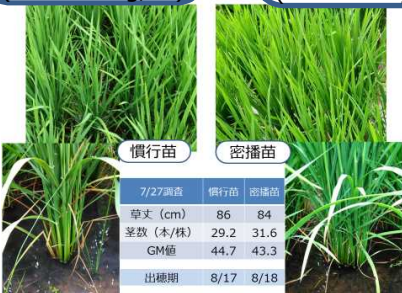
- ・無人ヘリコプターを持ち込みにくい圃場での活用が期待されます。
注意！運用する場合は、資格取得等の手続きが必要です。

事例2. 密播苗栽培 ～播種量多め、短期育苗、経費節減・省力田植～



慣行苗
(150~180g/箱)

密播苗
(250~300g/箱)



比較① 播種・育苗方法

項目	慣行苗	密播苗	慣行との対比
播種量/箱	150g~180g	250g~300g	1.67倍
育苗期間	25~35日間	10~20日間	▲15日間
苗長	15~20cm	10~15cm	—
苗齢	3.5~4.5葉	1.5~2.3葉	—

比較② 1ha当たり

項目	慣行苗	密播苗	慣行との対比
苗箱数	160個	56個	35%
育苗培土	36袋	23袋	64%
育苗培土費用 (530円/袋)	19,080円	12,190円	▲6,890円
播種量	24~28.8kg	14~16.8kg	58%
苗運搬時間	5.1時間	2.6時間	▲2.5時間
苗補充回数	13回	4回	▲9回

- ・育苗箱1個当たりの播種量は増加しますが、
①育苗期間短縮②経費節減③田植作業省力化に役立ちます。生育も慣行に劣りません。

事例3. 急傾斜地の草刈り作業 ～斜面での転落事故防止に有効～



- ・畦畔等の足場が不安定な場所での作業を、安全かつ効率的に行えます。